

## 看護学科 2年 後期 専門基礎科目／専門科目

1. 放射線治療管理論
2. 東洋医学概論
3. リハビリテーション論
4. 公衆衛生学
5. 看護管理論
6. 在宅看護学援助論Ⅱ
7. 精神看護学援助論Ⅱ
8. 成人看護学援助論Ⅱ
9. 成人看護学援助論Ⅳ
10. 高齢者看護学援助論Ⅱ
11. 小児看護学援助論Ⅱ
12. 母性看護学援助論Ⅱ
13. 成人看護学実習Ⅰ
14. 成人看護学実習Ⅱ
15. 高齢者看護学実習Ⅰ
16. 高齢者看護学実習Ⅱ
17. 小児看護学実習
18. 母性看護学実習
19. 精神看護学実習
20. 在宅看護学実習
21. 看護研究Ⅱ(看護研究の計画)
22. 国際医療活動論 \*2018年度カリキュラム

## 看護学科

科目名： 放射線治療管理論				担当教員 氏名： 北川 俊明		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	後期	専門基礎科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのようX線CT・CT-A MRI・MRA 血管撮影・血管内手術など症例を示し、手技及び読影において重要事項をうな授業を行っているか：説明						
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード	
進歩の著しい臨床放射線医学(放射線腫瘍学、放射線診断学、核医学)の概要を理解する。					放射線診断、放射線治療、 放射線防護 CT MRI 核医学 PET IVR	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力			・放射線治療の対象疾患、治療方法、治療に伴う合併症について理解する。 ・放射線診断学特にCT, MRI, PETの特徴と臨床における役割を理解する。			
C 論理的思考力			・放射線治療や放射線診断における看護師の役割について理解する。			
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 90 %		レポート： %		発表： %		実技試験： %
その他： 10 %						
特記事項： 出席状況・出席態度も評価する。全体の得点が60点未満の場合はReport提出を課す。						
アクティブラーニング要素： 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： 別に定めた日時にテストを1回行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法： テストについて解説する。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①放射線医学の基礎的事項・放射線防護について				【予習】教科書を読む 【復習】プリントの復習	【予習】90分 【復習】90分	
②CTIについて				【予習】教科書を読む 【復習】プリントの復習	【予習】90分 【復習】90分	
③MRIについて				【予習】教科書を読む 【復習】プリントの復習	【予習】90分 【復習】90分	
④核医学、PETについて				【予習】教科書を読む 【復習】プリントの復習	【予習】90分 【復習】90分	
⑤超音波診断、IVRその他+「放射線診断学・放射線防護」のまとめ				【予習】教科書を読む 【復習】プリントの復習	【予習】90分 【復習】90分	
⑥放射線治療学総論				【予習】教科書を読む 【復習】プリントの復習	【予習】90分 【復習】90分	
⑦放射線治療学総論				【予習】教科書を読む 【復習】プリントの復習	【予習】90分 【復習】90分	
⑧全体のまとめ				【予習】教科書を読む 【復習】プリントの復習	【予習】90分 【復習】90分	
使用テキスト： 系統看護学講座別巻7 臨床放射線医学 (医学書院) ISBN 978-4-260-02178-4				その他参考文献など：		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：						

## 看護学科

科目名： 東洋医学概論			担当教員 氏名： 柴原 直利、四日 順子、室谷 良子						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	後期	専門基礎科目	講義	選択				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：									
授業科目の学習教育目標の概要：						キーワード			
<p>【柴原】本邦では疾病構造の変化により医療には慢性疾患を含めた様々な症状への対応が求められており、そのような環境の中で伝統医学の役割が再認識されている。東洋の伝統医学と近代西洋医学では病態認識や治療概念が大きく異なっており、今後は伝統医学と近代医学との調和をいかに推進するかが重要な課題となる。そこで、本講義では東洋医学の全体像を理解することを目標とする。</p> <p>【四日】看護の中心概念と東洋医学の心身一如の概念は類似している。本講義では、心と身体を統合的に捉える全体性を理解し、ひとが本来持つ治癒力を促進するケアについて理解する。</p> <p>【室谷】古くから家庭で伝えられてきた、血の道療法の手わざ法の一部を取り入れ、いつでも、どこでも、誰でも、簡単に、短時間で実行でき、ケアする人もされる人も負担の少ない疲れにくい方法を提案します。この方法は、身体を温めることで、活動しやすくなり、活動することで自然治癒力を蘇らせ、心身の活性化を図ります。病のある人やあるいは病気がないにもかかわらずどこか体調の優れない方々への適用はもちろんのこと、現在健康であるがさらに健康的に生活したい方々にも提案することができます。医療に携わる皆さんは、まずは自分自身が心身共に健康であることが求められます。本シリーズでは、まずは、自分自身の身体を調整する方法を知ること、そして、健康問題に様々な反応を示す人々の苦痛や不安、心配事が最小限になるためのケアの一部を紹介します。これらのケアによる実証や臨床結果も併せてお伝えします。</p>						東洋医学 漢方薬 全体性 治癒力の促進 非薬物療法 爪きり マッサージ フットケア 血の道療法 伝統医学			
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9.					
A 知識・理解力		1. 東洋医学と西洋医学における「病態認識」及び「治療概念」の違いを理解する。 2. 東洋医学における「診断法」を理解する。 3. 臨床における漢方薬の利用状況(主要な対象疾患と頻用方剤、副作用などの問題点など)を理解する。 4. 西洋医学では解決のつかない健康問題をもつ対象への非薬物療法について理解する							
B 専門的技術		1. 臥床時の体重のかかり方を均等にするためのタオルの使い方を体験する 2. 爪根に平行な爪の中心のとり方を体験する 3. 爪の周囲のマッサージを行うことができる							
E 自己管理能力		4. 家庭用爪切り及びニッパーを用いた爪きり法を体験する 5. 臨床で活用できる簡単なマッサージを体験する 6. 一日の疲れを簡単にとる方法を体験する							
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト：	%	レポート：	%	発表：	%	実技試験：	%	その他：	%
特記事項：									
【柴原】出席状況と授業毎に行う小試験の結果により成績を評価する。 【四日】出席状況とレポートにより評価する 【室谷】出席状況とレポートにより評価する テスト:50% その他:50%									
アクティブラーニング要素：									
課題解決型学習      ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション      実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：【柴原】授業毎の最後に小テストを行う									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：採点し返却する									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
【柴原】									
①現代医療における東洋医学の役割と漢方医学的概念(1) "陰陽虚実"				【予習】事前配布の資料を読んでおきましょう。 【復習】学んだことで、自分の体調を診断してみよう。					
②漢方医学的概念(2) "気血水論"と漢方医学的診察法				【予習】60分 【復習】60分					
③漢方方剤の成り立ちと頻用方剤、副作用について									
【四日】									
④全体性の理解と治癒力促進のケア				【復習】自分の体調の変化を東洋医学的に感じてみましょう。 【復習】60分					
【室谷】									
⑤臥床時の体重のかかり方を均等にするタオルの置き方の体験				【予習】自分の身体の冷えや歪みを体感してみましょう。 【復習】学んだことを日常生活の一部に取り入れていきましょう。 【予習】90分 【復習】90分					
⑥爪の周囲のマッサージ、爪根に平行な爪の中心のとり方、切り方の体験									
⑦臨床で活用できる簡単なマッサージ体験									
⑧一日の疲れを簡単にとる方法の体験									
使用テキスト： 必要に応じて資料を配布します				その他参考文献など：【柴原・四日】「絵でみる和漢診療学」JUNスペシャル 寺澤捷年 著(医学書院) 【室谷】「からだのスーッと楽になる全身ケア」室谷良子 著(メロポリタンプレス)、「ピクチャーブック 爪のケア・手足のケア技術」室谷良子 監修(看護の科学社)					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：									
【柴原】 1. 東洋医学の心身一如の理念を理解して欲しい。 2. 東洋医学的病態を判断した上での漢方方剤による治療体系を理解して欲しい。									
【室谷】身近なタオルや用具を使用して、簡単にできるケアの方法を提案します。ご自身のため、またご家族のため、病の人へのケアのため、是非試してみてください。【四日】東洋医学的な体質傾向を知ること、自身の体調を整える技を持つとともに、患者のアセスメントに応用できることを目指しましょう。									

## 看護学科

科目名: リハビリテーション論			担当教員 氏名: 峰松まどか、岡田有由、小川順大						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	後期	専門基礎科目	講義	必修				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: それぞれの専門士として実務する経験から、看護への期待・連携のあり方について教授する。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
言語聴覚士、作業療法士の立場から言語療法の考え方、その実際の看護への期待、連携のあり方について説明する。作業療法士の立場から言語療法の考え方、その実際の看護への期待、連携のあり方について紹介する。リハビリテーションの概念。リハビリテーション医療と理学療法士の取り組み、実務経験に基づく主要疾患のリハビリテーション制度の現状と課題。看護師に望みたいこと等を説明し理解を深めてもらう。					リハビリテーション 言語療法 作業療法 理学療法 脳血管疾患・高次脳機能障害・廃用症候群				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8				
A 知識・理解力			リハビリテーションの概念と医療の流れについて理解を深める。 言語療法、作業療法、理学療法の理論と実際について理解を深める。						
C 論理的思考力			リハビリテーション医療における看護の役割について自分の考えを表現できる。						
F チームワーク・リーダーシップ			リハビリテーションにかかわる人々にふれ連携のあり方について考える。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験:	%	その他:	%
特記事項: 各担当講師により、評価法が異なる。 テスト100%(峰松) テスト100%(小川)									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別に定めた日時に実施します(峰松) 別に定めた日時に実施します(小川)									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 試験用紙に結果・コメントを記載し、フィードバックとします。(峰松) 試験において60%以上の者は、誤った箇所を自分で調べ再提出する。それ以下の者は、理解できていない箇所をヒアリングし、説明したのちレポート提出にて確認。(小川)									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①【峰松】言語療法の実際				【予習】言語療法について調べておく 【復習】講義内容の復習	60分				
②【峰松】言語療法の実際				【復習】講義内容の復習	60分				
③【岡田】作業療法とはについて学ぶ、作業療法の目的と対象、作業療法の実際についてナースとのかかわり				【予習】言語療法について調べておく 【予習】前回の復習を行い、自分の考えをまとめておく	60分				
④【岡田】作業療法の実際について学ぶ、まとめ				【復習】講義内容の復習	60分				
⑤【小川】リハビリテーションの概念、障害の捉え方と援助活動<W.H.Oの概念>など				【予習】前回の復習を行い、自分の考えをまとめておく 【復習】講義内容の復習	60分				
⑥【小川】リハビリテーション医療のながれと理学療法の進め方<理学療法> ※実習室で関節の動き方等を学習する為、動きやすい服装をお願いします				【復習】講義内容の復習	60分				
⑦【小川】リハビリテーション医療の現状と課題、看護師に望むこと				【復習】講義内容の復習	60分				
⑧【小川】まとめ、意見交換				【復習】講義内容の復習	60分				
使用テキスト: 必要に応じて資料を配布します				その他参考文献など: 「理学療法概論テキスト」南江堂 「地域リハビリテーション論」三輪書店 『作業』って何だろう」医歯薬出版					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): テキストは指定しませんが、各自「リハビリテーション医療」について予備知識があれば、話を深められると思います。									

## 看護学科

科目名： 公衆衛生学			担当教員 氏名： 松井 健一		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 後期	専門基礎科目	講義	必修	社会福祉主事任用資格
実務経験を用いてどのような授業を行っているか： 公衆衛生医師としての実務経験を活かし、保健と福祉について教授する。					
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード
地域保健・医療問題解決のために必要な公衆衛生学の基礎知識に重点を置き、疾病予防、疫学、行政施策、および国際的取り組みについて学ぶ。地球規模の環境問題と公衆衛生の今後の課題を考える。					公衆衛生、疫学、地域保健、予防、福祉
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号) 2. 5. 6. 8.			
A 知識・理解力	看護に活用される公衆衛生学の基礎知識を理解する				
B 専門的技術	専門的看護技術を習得するために、公衆衛生の考え方と行政施策を理解する				
C 論理的思考力	公衆衛生と疫学を理解し、看護の理論や技術を論理的に説明できる能力を養う				
F チームワーク・リーダーシップ	地域保健・地域医療の一員である看護師の役割を理解する				
G 倫理観	地域で生活する人々の健康や生命の尊厳を理解し、医療・福祉に携わるものとしての倫理観を身につける				
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト： 60 %	レポート： 20 %	発表： %	実技試験： %	その他： 20 %	
特記事項：公衆衛生の歴史をたどり、わが国の健康指標の改善や今後の課題を自ら考え、課題解決に必要な考え方、知識、技術、ネットワークのあり方を考察する。					
アクティブラーニング要素： (課題解決型学習) ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：小テストを兼ねたアンケートを行うことがある。6回目の講義時にレポートを実施する。「補講・試験」日に成績評価試験を実施する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：アンケートの結果は、次の講義で取り上げる。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①公衆衛生の歴史			テキスト「公衆衛生の歴史」を読む	【予習】120分 【復習】150分	
②公衆衛生のシステム			テキスト「現在の公衆衛生システムと政策」を読む	【予習】120分 【復習】150分	
③公衆衛生の政策			テキスト「諸外国の公衆衛生政策」を読む	【予習】60分 【復習】60分	
④公衆衛生の公的責任			テキスト「公衆衛生の理念・概念」を読む	【予習】120分 【復習】150分	
⑤公衆衛生の方法			テキスト「公衆衛生のものさし」を読む	【予習】60分 【復習】60分	
⑥疫学調査の実際			テキスト「公衆衛生活動における疫学」を読み、事例を学ぶ	【予習】120分 【復習】150分	
⑦公衆衛生のアプローチ			テキスト「公衆衛生活動のプロセス」を読む	【予習】50分 【復習】150分	
⑧まとめ			公衆衛生学授業全体の復習をする	【予習】50分 【復習】150分	
使用テキスト： 使用テキスト：ISBN978-4-8404-4913-7 平野かよ子、他(編)：ナーシング・グラフィカ⑧ 「公衆衛生」メディカ出版			その他参考文献など： 近藤克則 著 「健康格差社会への処方箋」医学書院		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：新型コロナウイルス感染症は、公衆衛生や疫学調査の重要性を改めて世に問うている。公衆衛生は国家試験の必須項目であるので、今後も出題が増えると予想される。しっかりと学習してほしい。					

## 看護学科

科目名: 看護管理論		担当教員 氏名: 河相 てる美、小倉 之子			
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 後期	専門科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのよ: 3年次の総合実習を踏まえて、看護業務の中で複数患者を担当して多重課題演習として時間管理を考慮し、一日のうな授業を行っているか: 行動計画を立案する(グループワークによる学びを発表する)。					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
①看護管理の概念と原則を学び、質の高い看護サービスを提供するために看護職個人および看護組織が担う役割を理解する。②医療施設における看護管理者の看護実践活動の現状と課題を看護管理の視点で理解する。③マネジメントについて理解を深め、リーダーシップを身につけ活動できることを目指す。					看護管理、看護組織、看護提供システム、安全管理、看護政策、看護サービス、リーダーシップ
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号) 1. 2. 5. 6. 9.			
A 知識・理解力	看護管理、マネージメントについて理解を深める				
C 論理的思考力	看護サービスを提供するために計画的、継続的に活動する仕組みを考える				
D 問題解決力	看護援助を実施するにあたり、看護問題を認識し、解決に向けての行動できる				
F チームワーク・リーダーシップ	リーダーシップ・メンバーシップの役割を理解し、行動できる				
G 倫理観	看護実践をする上で、倫理的配慮を考慮しながら行動できる				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: %	レポート: 50 %	発表: 30 %	実技試験: %	その他: 20 %	
特記事項: 看護業務の上で多重課題についてグループでディスカッションし、行動計画、根拠について概要をまとめて、発表する					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> 、 <u>ディベート</u> <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポートは授業の際に提示する。発表は最終日に実施する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題レポートは提出後にコメントを記入し返却する。					
授 業 計 画		準備学習(予習・復習等)			
		学習内容		学習に必要な時間(分)	
①人々の生活と看護のかかわり		【予習】テキストを熟読する 【復習】テキストと授業資料復習		【予習】90分 【復習】90分	
②【小倉】看護の歴史		【予習】テキストを熟読する 【復習】テキストと授業資料復習		【予習】90分 【復習】90分	
③看護管理の基本となるもの		【予習】テキストを熟読する 【復習】テキストと授業資料復習		【予習】90分 【復習】90分	
④看護管理に求められる能力		【予習】テキストを熟読する 【復習】テキストと授業資料復習		【予習】90分 【復習】90分	
⑤【特別講義】 看護管理の実際①		【予習】テキストを熟読する 【復習】テキストと授業資料復習		【予習】90分 【復習】90分	
⑥【特別講義】 看護管理の実際②		【予習】テキストを熟読する 【復習】テキストと授業資料復習		【予習】90分 【復習】90分	
⑦多重課題演習(多重業務における行動計画を考える)グループワーク		【予習】テキストを熟読する 【復習】テキストと授業資料復習		【予習】90分 【復習】90分	
⑧多重課題演習(多重業務における行動計画を考える)プレゼンテーション		【予習】看護管理を担う役割を全体的に理解する 【復習】課題レポートと授業資料復習		【予習】90分 【復習】90分	
使用テキスト: 『ナースング・グラフィック看護の統合と実践①「看護管理」』 メディカ出版 ISBN978-4-8404-6135-1 C3347			その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): テキストの予習・復習をしっかりと行いましょう。					

## 看護学科

科目名： 在宅看護学援助論Ⅱ			担当教員 氏名： 荒木 晴美、今川 孝枝 炭谷 英信、山本 朋子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	看護師、社会福祉士、介護支援専門員、 福祉住環境コーディネータ
2	2年次 後期	専門科目	演習	必修	
実務経験を用いてどのよ、病院、訪問看護事業所管理者(訪問看護、居宅介護、福祉用具貸与)での実務経験を活かして、在宅でうな授業を行っているか：暮らす人々の理解、在宅看護に必要な技術やQOL向上に向けた看護過程の展開を教授する。					
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード
在宅療養やその家族の理解を深め、在宅看護に必要な基本的な援助方法と、保健・医療・福祉システムの利用について学ぶとともに、在宅における看護職の役割について学び、在宅療養者と家族のQOL向上を目指した生活支援方法を実施するための基礎を作る。					在宅療養者、家族、保健・医療・福祉システム
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力		在宅療養者と家族のQOL向上を目指した保健・医療・福祉システム、生活支援方法について理解できる。			
B 専門的技術		在宅看護活動基盤形成に必要な技術が習得できる。			
C 論理的思考力		情報や知識を複眼的、論理的に分析し、在宅療養者とその家族のアセスメントを行い、課題を抽出し課題解決に向けた看護過程が展開できる。			
F チームワーク・リーダーシップ		グループワークを通し各自の役割を理解し、チームに参画することができる。			
H コミュニケーション力		コミュニケーションをすることにより、他者に共感でき、相手の立場に立って考えることができる姿勢を身につける。			
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト： 50 %	レポート・課題： 20 %	発表： 20 %	実技試験： %	その他： 10 %	
特記事項：本科目はアクティブ・ラーニングの一環としてロールプレイやグループワーク、シンポジウム参加、ディベートなどを取り入れ、地域で暮らす療養者、家族の健康管理やQOL向上を目指した生活支援を理解し看護が展開できることをねらいとしています。 上記の「その他10%」：授業の取り組み姿勢を評価します。					
アクティブラーニング要素：					
課題解決型学習 (ディスカッション、ディベート) (グループワーク) (プレゼンテーション) 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：別に定めた日にテストを行います。適宜レポートの提出と発表を課します。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法： 後日テストやレポートを返却します。					
使用テキスト： 1.在宅看護論、医学書院、河原加代子、978-4-260-02762-5(在宅看護学援助論Ⅰで使用のもの) 2.在宅看護技術、メヂカルフレンド社、正野逸子・本田彰子、978-4-8392-1558-0 c3347 (前期在宅看護学援助論Ⅰで使用のもの) 3.関連図で理解する在宅看護過程、メヂカルフレンド社、正野逸子・本田彰子、978-4-8392-1629-0 c3047(1年在宅看護学概論で使用のもの)			その他参考文献など： 1.国民衛生の動向 2.家族看護を基盤とした在宅看護論(日本看護協会出版会)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 授業の予習・復習を前提とした主体的な姿勢で授業に臨んでください。この授業は3年次の在宅看護学実習につながるものです。					
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)	
				学習内容	学習に必要な時間(分)
回数					
1	【荒木】オリエンテーション、在宅における看護活動、在宅看護の特徴			【予習】テキスト1の第3章Aを読む 【復習】①をノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分
2	【荒木】在宅看護の特徴と看護の役割			【予習】テキスト1の第1.2章、テキスト2の第1章①②を読む 【復習】ポイントをノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分
3	【山本】在宅ケア体制とケアマネジメント			【予習】テキスト2第Ⅱ章⑤を読む 【復習】ポイントをノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分
4	【山本】在宅看護のリスクマネジメント			【予習】テキスト1第5章C、テキスト2第Ⅱ章⑥を読む 【復習】ポイントをノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分
5	【炭谷】在宅看護技術(マナー)			【予習】別資料を読む 【復習】ポイントをノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分

※前ページよりつづき

看護学科

科目名: 在宅看護学援助論Ⅱ		担当教員 氏名: 荒木 晴美、今川 孝枝、 炭谷 英信、山本 朋子	
授業計画		準備学習(予習・復習等)	
		学習内容	学習に必要な時間(分)
6	【炭谷】在宅看護技術(コミュニケーション)	【予習】テキスト1第6章、A①、テキスト2第Ⅱ章②を読む 【復習】ポイントをノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分
7	【山本】在宅における日常生活援助技術(食事)	【予習】テキスト2第Ⅲ章①を読む 【復習】ポイントをノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分
8	【炭谷】在宅における日常生活援助技術(排泄)	【予習】テキスト2第Ⅲ章②を読む 【復習】ポイントをノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分
9	【特別講義】地域で生活する難病を持った人に対する支援・制度の理解(荒木)	【予習】テキスト1第4章B④を読む 【復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分
10	【炭谷】在宅療養者の日常症状・状態別看護(清潔と衣生活)	【予習】テキスト2第Ⅲ章③を読む 【復習】ポイントをノートにまとめる	【予習】120分 【復習】121分
11	【炭谷】在宅における日常生活援助技術(活動と休息)	【予習】テキスト2第Ⅲ章④を読む 【復習】ポイントをノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分
12	【炭谷】在宅における日常生活援助技術(リハビリテーション)	【予習】テキスト2第Ⅲ章⑤を読む 【復習】ポイントをノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分
13	【炭谷】在宅における日常生活援助技術(住まい・生活環境)	【予習】テキスト2第Ⅲ章⑥を読む 【復習】ポイントをノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分
14	【山本】処置に伴う援助技術(医療処置)	【予習】テキスト1第6章C、テキスト2第Ⅳ章④、⑦、⑧を読む 【復習】ポイントをノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分
15	【山本】処置に伴う援助技術(医療処置)	【予習】テキスト1第6章③～⑨、テキスト2第Ⅳ章②、③、⑤、⑥を読む 【復習】ポイントをノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分
16	【山本】薬物療法と服薬管理	【予習】テキスト1第6章⑩、テキスト2第Ⅳ章⑩を読む 【復習】ポイントをノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分
17	【山本】在宅終末期ケア、疼痛管理	【予習】テキスト1第7章A⑤、I、テキスト2第Ⅳ章⑬、第Ⅴ章を読む 【復習】ポイントをノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分
18	【荒木】在宅看護過程	【予習】テキスト1の第5章A、B、テキスト2第Ⅱ章②、テキスト3第Ⅱ章を読む 【復習】該当ページ熟読	【予習】120分 【復習】120分
19	【荒木】在宅での看護記録		【予習】120分 【復習】120分
20	【炭谷・荒木】在宅療養者の症状・状態別看護(看護過程)	【予習】別資料を配布するので熟読 【復習】ポイントをノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分
21	【炭谷・荒木】在宅療養者の症状・状態別看護(看護過程)		【予習】120分 【復習】120分
22	【炭谷・荒木】在宅療養者の症状・状態別看護(事例の疾患理解と情報整理、関連図作成)	【予習】事例を読み疾患や薬剤について調べる 【復習】課題の遂行	【予習】120分 【復習】120分
23	【炭谷・荒木】在宅療養者の症状・状態別看護(GW:事例の情報整理、関連図作成)		【予習】120分 【復習】120分
24	【炭谷・今川】在宅療養者の症状・状態別看護(GW:事例の関連図作成、看護課題作成)	【予習】【復習】グループ課題の遂行	【予習】120分 【復習】120分
25	【炭谷・今川】在宅療養者の症状・状態別看護 事例展開(GW:事例の関連図作成、看護課題について中間発表)		【予習】120分 【復習】120分
26	【炭谷・今川】在宅療養者の症状・状態別看護 事例展開(GW:事例の訪問看護計画作成)		【予習】120分 【復習】120分
27	【炭谷・今川】在宅療養者の症状・状態別看護 事例展開(GW:事例の訪問看護計画作成、発表準備)	【予習】課題の遂行、発表準備 【復習】ポイントの確認	【予習】120分 【復習】120分
28			【予習】120分 【復習】120分
29	【炭谷・今川・荒木】在宅療養者の症状・状態別看護 事例展開(事例の発表・討論)	【復習】在宅看護過程の特徴について振り返る	【予習】120分 【復習】120分
30	【荒木】まとめ	【予習】全体の振り返り 【復習】テストに向けて学習	【予習】120分 【復習】120分

看護学科			2年		
科目名: 精神看護学援助論Ⅱ			担当教員氏名: 北山由起子、坂東紀代美、田中浩二		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 後期	専門科目	演習	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:					
授業科目の学習教育目標の概要:			キーワード		
精神障害者の生活障害を理解し適切な援助方法を学習する。精神障害者とその家族の不安や健康問題を解決するための看護援助を看護計画として立案、実践できる基本的能力を育成する。収容施設から治療施設への精神科病院の変化に対応して家族や地域支援システムなど社会資源の活用方法についても学ぶ。			心の障害 ストレスと身体的反応 精神科疾患と精神症状 治療的関わり 看護計画立案		
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9	
A 知識・理解力	看護展開のための精神科疾患の症状・治療・精神科リハビリテーションを理解する。精神科疾患当事者の「生きづらさ」や急性・慢性症状を理解できる。				
C 論理的思考力	精神の障害が、家族関係や社会生活上にもたらす影響について考えることができ、個別看護として看護計画に反映できる。				
D 問題解決力	精神障害者を個別に理解し、当事者に必要な具体的援助や支援を実践できる。精神科リハビリテーションを理解し関係する職種や社会資源の活用を考えることができる。				
G 倫理観	精神障害者の処遇や社会的偏見を理解して寛解過程に向き合うことができる。				
H コミュニケーション力	精神科疾患の急性期や慢性時の特徴に対して信頼関係の構築や不安の除去にむけて、工夫する大切さが理解できる。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 70 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %	
特記事項: ・残り20%は、レポートと発表を合わせた評価とする。 ・看護計画立案やプロセスレコード、出席状況、その他を総合して評価する。 ・アクティブラーニングの一環として、グループワークと発表を行う。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 適宜行う。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 試験、レポートは評価の後に返却する。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容		学習に必要な時間(分)
【坂東】 ①精神看護における援助技術:1)対象の理解 心理社会的アセスメント			【予習】②第4・5章参照 【復習】②第4・5章を復習として読む。	予習60分 復習60分	
【坂東】 ②精神看護における援助技術:2)援助関係の構築			【予習】②第4・5章参照 【復習】②第4・5章を復習として読む。	予習60分 復習60分	
【坂東】 ③精神障害者への地域支援:地域支援施設の役割			【予習】②第7章参照 【復習】②第7章を復習として読む。	予習60分 復習60分	
【坂東】 ④精神科リハビリテーション:社会生活技能訓練			【予習】②第7章参照 【復習】②第7章を復習として読む。	予習60分 復習60分	
【北山】 ⑤精神疾患事例を考えてみよう:(GW)事例演習			【予習】②第1・9章参照 【復習】②第1・9章を復習として読む。	予習60分 復習60分	
【北山】 ⑥精神疾患事例を考えてみよう:(GW)事例発表			【予習】②第1・9章参照 【復習】②第1・9章を復習として読む。	予習60分 復習60分	
【北山】 ⑦精神看護に用いる理論 :看護過程(看護計画について)			【予習】②第1・9章参照 【復習】②第1・9章を復習として読む。	予習60分 復習60分	
【北山】 ⑧アセスメントと看護計画の立案 :(GW)事例演習			【予習】②第1・9章参照 【復習】②第1・9章を復習として読む。	予習60分 復習60分	
【北山】 ⑨アセスメントと看護計画の立案 :(GW)事例演習			【予習】②第1・9章参照 【復習】②第1・9章を復習として読む。	予習60分 復習60分	
【北山】 ⑩アセスメント・看護計画の事例発表			【予習】②第1・9章参照 【復習】②第1・9章を復習として読む。	予習60分 復習60分	
【北山】 ⑪アセスメント・看護計画の事例発表			【予習】②第6章参照 【復習】②第6章を復習として読む。	予習60分 復習60分	
【田中】 ⑫入院環境と治療的アプローチ			【予習】②第6章参照 【復習】②第6章を復習として読む。	予習60分 復習60分	
【田中】 ⑬精神科救急システム、アウトリーチ支援 (訪問活動、ACT)			【予習】②第8章参照 【復習】②第8章を復習として読む。	予習60分 復習60分	
【田中】 ⑭プロセスレコードと再構成①			【予習】②第10章参照 【復習】②第10章を復習として読む。	予習60分 復習60分	
【田中】 ⑮プロセスレコードと再構成②			【予習】②第10章参照 【復習】②第10章を復習として読む。	予習60分 復習60分	
使用テキスト: ○精神看護学(1):情緒発達と精神看護の基本 (ナーシンググラフィカ) ○精神看護学(2):精神障害と看護の実践 (ナーシンググラフィカ) ○看護のための精神医学 第2版 中井久夫、山口直彦 (医学書院)			その他参考文献など: ・こんなとき私はどうしてきたか 中井久夫 (医学書院) ・看護にいかずカウンセリング—臨床に役立つさまざまなアプローチ 白井幸子 (医学書院) ・自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード 長谷川 雅美 (日総研)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):この授業では具体的精神看護の展開方法を主な学習内容としています。先に学んだ精神疾病治療管理論と精神看護概論、特に精神看護援助論Ⅰの内容と関連付けながら学習を進めることで精神看護の理解を深めることができる授業です。					

## 看護学科

科目名： 成人看護学援助論Ⅱ			担当教員 氏名： 中田 智子 河相 てる美		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	
1	2年次	後期	専門科目	演習	必修
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：			看護師の実務経験を活かして、看護の場や対象の理解と現状について教授する。		
授業科目の学習教育目標の概要：				キーワード	
成人期は、社会的役割を担い、自立・自律し、基本的にはセルフマネジメント、意思決定ができる存在です。そのような人の急な病気・外傷・手術に伴う人間の心理的ストレスや生体侵襲などによる心身反応を理解し、個人の尊厳に配慮しながら根拠に基づいた看護を提供できる知識・技術・態度の育成を目指す。				手術侵襲・生体反応 術前・術後の看護 術後合併症	
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10
A 知識・理解力		知識を体系的に理解するとともに、学んだ知識をつないでいくことができる			
C 論理的思考力		さまざまな知識・技術を統合し活用するために論理的に考え、看護を探究する			
E 自己管理能力		自らを律して、困難にも諦めない、逃げない、自分勝手な解釈をし、他者批判をしない			
F チームワーク・リーダーシップ		グループでの自己の役割を理解し、自己の責任を果たし、お互いを資源とし、助け合う			
G 倫理観		他者が、自分が尊重され、配慮されたことと認識できるような行動をする			
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト： 30 %	レポート： 40 %	発表： 0 %	演習： 20 %	その他： 10 %	
特記事項：					
アクティブラーニング要素： 課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> 、 <u>レポート</u> <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：別に定めた日時に実施する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法： 演習に向けて事前課題を提示し、演習後提出を課す。授業の中で適宜解説をする。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①【河相】周術期の看護過程の展開：看護診断と共同問題の理解			【予習】テキスト1の第7章、テキスト3を読む 【復習】講義資料をもとに復習する	【予習】60分 【復習】60分	
②【中田】手術前の患者の看護			【予習】テキスト1の第7-8章を読む 【復習】テキストと講義資料をもとに復習する	【予習】120分 【復習】120分	
③【中田】手術中の患者の看護			【予習】テキスト1の第9章を読む 【復習】テキストと講義資料をもとに復習する	【予習】120分 【復習】120分	
④【中田】手術後の患者の看護			【予習】テキスト1の第9章を読む 【復習】テキストと講義資料をもとに復習する	【予習】120分 【復習】120分	
⑤【中田】手術後回復期の患者の看護			【予習】演習課題の実施 【復習】演習後の課題提出	【予習】120分 【復習】120分	
⑥【中田・河相】演習：手術前患者の看護(術前オリエンテーション)【A・B別日】			【予習】演習課題の実施 【復習】演習後の課題提出	【予習】120分 【復習】120分	
⑦【河相・中田】演習：手術前患者の看護(術前訓練)【A・B別日】			【予習】演習課題の実施 【復習】演習後の課題提出	【予習】120分 【復習】120分	
⑧【中田・河相】演習：手術室看護(手洗い・ガウンテクニック)【A・B別日】			【予習】演習課題の実施 【復習】演習後の課題提出	【予習】120分 【復習】120分	
⑨【河相・中田】演習：手術室看護(挿管介助・術後受け入れ準備)【A・B別日】			【予習】演習課題の実施 【復習】演習後の課題提出	【予習】120分 【復習】120分	
⑩【中田・河相】グループワーク：看護過程の展開(1)情報の整理とアセスメント			【予習】関連したテキストを読む。(テキスト123)事例の疾患と看護について調べ、課題に取り組む 【復習】テキストと講義資料をもとに復習する	【予習】120分 【復習】120分	
⑪【中田・河相】グループワーク：看護過程の展開(2)関連図			【予習】関連したテキストを読む。(テキスト124)事例の疾患と看護について調べ、課題に取り組む 【復習】テキストと講義資料をもとに復習する	【予習】120分 【復習】120分	
⑫【中田・河相】グループワーク：看護過程の展開(3)看護診断			【予習】演習課題の実施 【復習】演習後の課題提出	【予習】120分 【復習】120分	
⑬【中田・河相】グループワーク：看護過程の展開(4)看護計画立案			【予習】演習課題の実施 【復習】演習後の課題提出	【予習】120分 【復習】120分	
⑭【河相・中田】演習：手術直後の患者の看護(術直後の観察)【A・B別日】			【予習】演習課題の実施 【復習】演習後の課題提出	【予習】120分 【復習】120分	
⑮【中田・河相】演習：手術直後の患者の看護(初回離床)【A・B別日】			【予習】演習課題の実施 【復習】演習後の課題提出	【予習】120分 【復習】120分	
使用テキスト：1. 矢永勝彦他編集：系統看護学講座；別巻 臨床外科看護総論 ISBN978-4-260-02769-4 医学書院。2. 北島政樹他編集：系統看護学講座；別巻 臨床外科看護各論 ISBN978-4-260-02765-6 医学書院。3. 看護診断ハンドブック第11版、ISBN978-4-260-03451-7 医学書院。			その他参考文献など：竹内登美子：周術期看護1～5、医歯薬出版株式会社、矢田昭子編集：基準看護計画(第3版)、照林社 本庄恵子監修：写真でわかる臨床看護技術②、インターメディカ		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：課題は期日を守って提出する。演習においてグループメンバーと協力して行う。					

看護学科						
科目名: 成人看護学援助論IV				担当教員 氏名: 小倉 之子		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	後期	専門科目	演習	必修	
実務経験を用いてどのような情報収集、アセスメント、関連図、看護計画、指導計画 において実際の記載事例をそれぞれに挙げ、学生が誤りやすい箇所や捉えておきたい情報などについて説明し個別性のある看護過程の展開をめざす						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
成人看護実習に向けて事例による看護過程の展開の実際を習得する。実際の実習記録を用いて情報収集、アセスメント、計画立案、指導計画まで作成する。また疾患の病態関連図や看護の関連図を作成する					慢性期看護、看護過程	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (短縮マトリックスで示される番号)		2. 4. 6. 9		
A 知識・理解力		1年次に習得した看護理論、病態生理を再確認しながら理解することができる				
B 専門的技術		状況や関係を把握して、疾患看護の技術を習得することができる				
C 論理的思考力		さまざまな情報や知識を得て、大局的・論理的に分析することができる				
D 問題解決力		看護過程を実際に行うことで、解決に必要な情報収集・分析・具体的な支援策を考え、次の支援に繋げていくことができる				
F チームワーク・リーダーシップ		看護過程を実際に行うことで、解決に必要な情報収集・分析・具体的な支援策を考え、次の支援に繋げていくことができる				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %		レポート: 40 %		発表: %		
				実技試験: %		
				その他: 10 %		
特記事項: 「その他10%」については、授業態度・グループワークでの取り組み姿勢を評価する。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク シェアリング 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 最後に筆記試験による学習内容の確認を実施する。 適宜、レポートによる課題を提示する。テーマや提出日は講義内に伝える。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 事例の記録について項目ごとにコメントし、記録を返却する。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①慢性期看護と客観的な記録方法				【予習】慢性期疾患看護テキストの1章を熟読【復習】①の復習	【予習】120分 【復習】120分	
②看護過程の展開: 事例紹介、記録用紙の使用法、情報収集				【予習】成人看護実習Ⅱの記録様式を確認する【復習】②の復習	【予習】120分 【復習】120分	
③看護過程の展開(1) アセスメント(情報収集と分析)				【予習】慢性期疾患に関する参考文献を準備する【復習】③の復習	【予習】120分 【復習】120分	
④看護過程の展開(2) 病態関連図作成				【予習】慢性期疾患の病態生理、検査などの概要を理解する【復習】④の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑤看護過程の展開(3) 看護関連図作成				【予習】病態関連図の内容を理解する【復習】⑤の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑥看護過程の展開(4) 中間発表資料作成準備				【予習】事例に基づき、病態関連図を書いてくる【復習】⑥の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑦看護過程の展開(5) 中間発表会(情報収集から問題点抽出)				【予習】事例に基づき、病態関連図を書いてくる【復習】⑦の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑧看護過程の展開(6) 診断リスト作成				【予習】事例に基づき、病態関連図を書いてくる【復習】⑧の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑨看護過程の展開(7) 目標・計画立案				【予習】事例のアセスメントから看護計画の立案準備をする【復習】⑨の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑩看護過程の展開(8) 計画立案				【予習】事例のアセスメントから看護計画の立案準備をする【復習】⑩の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑪看護過程の展開(9) 指導案作成				【予習】慢性期看護のテキスト第4章Ⅶ熟読【復習】⑪の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑫看護過程の展開(10) 最終発表会資料作成準備				【予習】慢性期看護のテキスト第4章Ⅶ熟読【復習】⑫の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑬【特別講義】糖尿病患者の看護の役割の実際(1) 自己注射・フットケア				【予習】慢性期看護テキストⅣ章熟読【復習】⑬の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑭【特別講義】糖尿病患者の看護の役割の実際(2) 自己注射・フットケア				【予習】慢性期看護テキストⅣ章熟読【復習】⑬の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑮看護過程の展開 評価とまとめ (事例による看護過程発表)				【予習】慢性期疾患看護援助の記録全体を確認する【復習】最終試験学習	【予習】120分 【復習】120分	
使用テキスト: 1. 黒江ゆり子編集, 経過別成人看護学③慢性期看護, メチカルフレンド社ISBN978-4-8392-3327-3C3347 2. リンダJカルペニート著, 黒江ゆり子監訳, 看護診断ハンドブック(第11版), 医学書院ISBN978-4-260-03451-7C3047				その他参考文献など: 1. 渡邊トシ子編集, ハンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント(第3版)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 看護過程の展開方法について1年次に習得した看護過程授業の資料などを見直しながらグループワークに臨みましょう。						

## 看護学科

科目名: 高齢者看護学援助論Ⅱ			担当教員 氏名: 今川 孝枝			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	後期	専門科目	演習	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 看護師の実務経験を活かして、看護の場や対象の理解と現状について教授する。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
高齢者の保健行動の特徴を知り、日常生活における健康維持・増進及び疾病・事故予防の視点をもった援助について理解できる。また、健康維持・増進のための環境調整についても理解する。					高齢者、健康維持・増進 QOL、事故予防 日常生活行動、環境調整	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 5. 6. 7. 9	
A 知識・理解力	高齢者の機能障害が日常生活に及ぼす影響と生活機能の維持・向上への支援方法を理解する					
B 専門的技術	高齢者の特徴に応じた看護技術の実際が分かる					
C 論理的思考力	高齢者の健康課題をアセスメントし、看護計画が立案できる					
G 倫理観	援助にあたり、個人の尊厳を守ることができる					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %	レポート: 40 %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項: レポートは看護過程の展開、その他10%は授業態度・取り組み姿勢や出席状況について評価する。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別に定めた日時に最終テストを行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題は添削の後返却し、授業で解説する。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容		学習に必要な時間(分)	
①高齢者の生活機能を整える援助(移動・移乗)			【予習】演習前課題 【復習】①の復習		【予習】60分 【復習】60分	
②高齢者の生活機能を整える援助(移動・移乗)			【予習】演習前課題 【復習】②の復習		【予習】60分 【復習】60分	
③高齢者の生活機能を整える援助(食事)			【予習】演習前課題 【復習】③の復習		【予習】60分 【復習】60分	
④高齢者の生活機能を整える援助(食事)			【予習】演習前課題 【復習】④の復習		【予習】60分 【復習】60分	
⑤高齢者の生活機能を整える援助(排泄)			【予習】演習前課題 【復習】⑤の復習		【予習】60分 【復習】60分	
⑥高齢者の生活機能を整える援助(排泄)			【予習】演習前課題 【復習】⑥の復習		【予習】60分 【復習】60分	
⑦看護過程の展開(1)情報整理			【予習】疾患について学習する 【復習】⑦の復習		【予習】60分 【復習】60分	
⑧看護過程の展開(2)アセスメント			【予習】アセスメントを進める 【復習】⑧の復習		【予習】60分 【復習】60分	
⑨看護過程の展開(3)アセスメント			【予習】アセスメントを要約する 【復習】⑨の復習		【予習】60分 【復習】60分	
⑩看護過程の展開(4)関連図			【予習】関連図を作成する 【復習】⑩の復習		【予習】60分 【復習】60分	
⑪看護過程の展開(5)関連図			【予習】関連図を作成する 【復習】⑪の復習		【予習】60分 【復習】60分	
⑫看護過程の展開(6)計画立案			【予習】看護計画の立案する 【復習】⑫の復習		【予習】60分 【復習】60分	
⑬看護過程の展開(7)計画立案			【予習】看護計画を立案する 【復習】⑬の復習		【予習】60分 【復習】60分	
⑭看護過程の展開(8)援助の実施			【予習】援助計画を実施する 【復習】⑭の復習		【予習】60分 【復習】60分	
⑮看護過程の展開(9)まとめ			【予習】事例を見直し整理する 【復習】⑮の復習		【予習】60分 【復習】60分	
使用テキスト: ①北川公子著者代表:系統別看護学講座専門分野Ⅱ老年看護学(医学書院)ISBN978-4-260-03186-8 ②鳥羽研二他:系統別看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論(医学書院)ISBN978-4-260-03172-1			その他参考文献など: ①厚生労働統計協会:国民衛生の動向 ②泉キヨコ他編集:老年看護技術(メジカルフレンド社) ③山田律子他:老年看護過程(医学書院)			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): テキスト①②は併用するため持参してください。						

看護学科			2年			
科目名: 小児看護学援助論Ⅱ			担当教員氏名: 古里 直子、平井 宏衣、北澤 由美子			
単 位	開講時期	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	2年次 後期	専門科目	演習	必修		
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			看護師の実務経験を活かして、対象の理解と看護技術の実際について講義を行う			
授業科目の学習教育目標の概要:			キーワード			
<ul style="list-style-type: none"> <li>前期の小児看護学の内容をふまえ、健康問題がある小児と家族の看護技術を身につける。</li> <li>事例を通して小児看護に必要な看護過程を学ぶことができる。</li> <li>「子どもの最善の利益」を考慮した看護技術と知識の統合ができる。</li> </ul>			病気・障がい・健康問題・小児・家族・「子どもの最善の利益」・看護技術・看護過程			
授業における学習の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 8.		
A 知識・理解力	①病気や入院や病期別的小児と家族を支援するための看護技術を身につける。					
C 論理的思考力	②小児期特有の症状や疾患をもつ小児と家族への支援技術を習得する。					
B 専門的技術	③さまざまな状況にある小児と家族の現状を理解する。					
D 問題解決力	④事例から疾患をもつ子どもと家族の看護についてグループ間で理解を深め、看護過程の考え方を知る。					
F チームワーク・リーダーシップ						
G 倫理観	⑤「子どもの最善の利益」を考慮した臨地実習の準備ができる。					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 60%	レポート: 15%	発表: 15%	課外活動: %	その他(演習態度): 10%		
特記事項: アクティブ・ラーニング						
グループワークにおける態度・取り組み姿勢や課題内容について評価する						
アクティブラーニング要素: <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">課題解決型学習</span> ディスカッション、ディベート <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">グループワーク</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">プレゼンテーション</span> 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 各単元終了後に確認テストまたは、グループ発表・技術チェックを成績の評価とする。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: テストや提出レポートに評価の数値化やコメントを記載して返却。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容		学習に必要な時間(分)	
①【古里】事例による看護過程の展開: 情報の整理とアセスメント			【予習】テキストの該当箇所や配布資料を読む・図書館などで参考図書を活用し、課題シートの記入		【予習】60分 【復習】60分	
②【古里】事例による看護過程の展開: アセスメント、関連図、看護診断			【復習】看護過程に用いるシートの記入と修正の繰り返し(つくり・つくりかえ・つくる)		【予習】60分 【復習】60分	
③【古里】事例による看護過程の展開: 看護計画 発表原稿完成			【予習】グループ発表に向けて、担当箇所の発表資料作成		【予習】60分 【復習】60分	
④【古里】事例による看護過程の展開: 看護過程から立案した看護計画(グループ発表)			【復習】他のグループと学びを共有する		【予習】60分 【復習】60分	
⑤【古里】事例による看護過程の展開: 看護過程から立案した看護計画(グループ発表)					【予習】60分 【復習】60分	
⑥【古里】事例による看護過程の展開: 看護過程から立案した看護計画(グループ発表)					【予習】60分 【復習】60分	
⑦【古里】小児看護技術講義: 小児看護学①第5章「症状を示す小児の看護」①					【予習】60分 【復習】60分	
⑧【古里】小児看護技術講義: 小児看護学①第5章「症状を示す小児の看護」②			【予習】テキストの該当箇所を読む。事前課題の記入		【予習】60分 【復習】60分	
⑨【古里】小児看護学②第2章 新生児の看護			【復習】配布資料の確認と復習		【予習】60分 【復習】60分	
⑩【古里】小児看護学①第19章 事故・外傷と看護 一次救急処置・救命救急					【予習】60分 【復習】60分	
⑪【平井】小児看護学①第8章 子どもの虐待と看護					【予習】60分 【復習】60分	
⑫【古里・北澤・平井】小児看護技術演習 Aグループ 講義 Bグループ 与薬・静脈注射の支援					【予習】60分 【復習】60分	
⑬【古里・北澤・平井】小児看護技術演習 Aグループ 講義 Bグループ 吸引、酸素療法、骨髄穿刺、腰椎穿刺の看護			【予習】テキスト付属のDVD視聴とテキストで技術のイメージ化。事前課題の記入		【予習】60分 【復習】60分	
⑭【古里・北澤・平井】小児看護技術演習 Bグループ 講義 Aグループ 与薬・静脈注射の支援			【復習】実施した技術の振り返り。気づきと今後の課題の明確化		【予習】60分 【復習】60分	
⑮【古里・北澤・平井】小児看護技術演習 Bグループ 講義 Aグループ 吸引、酸素療法、骨髄穿刺、腰椎穿刺の看護					【予習】60分 【復習】60分	
評価審査 試験 健康障害のある小児と家族の生活・療養するための看護過程や技術などを問う						
使用テキスト: ・系統看護学講座 小児看護学① 医学書院 ISBN 978-4-260-02002-2 ※1年次購入済 ・ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能①「解剖生理学」 ISBN: 9784840453745※1年次購入済 ・系統看護学講座 小児看護学② 医学書院 ISBN 978-4-260-01990-3 ・写真でわかる小児看護技術 改訂第3版 インターメディカ出版 ISBN 978-4-8996-344-8 ・ナースの小児科学 中外医学社 ISBN 978-4-498-07579-5 ・こどもの検査値ノート 第2版 医学書院 ISBN 978-4-2601192308			その他参考文献など: 小児の疾患と病気の成り立ち等の医学書を参考にする。			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・こどもの発達段階や身体的特徴をとらえた看護技術を考える場とする。 ・小児看護師として「子どもの最善の利益」を守る関わりができる知識・技術の習得を目指してほしい。 ・日程は講師の都合、学校の行事により変更することがあるため掲示板を確認を行う。						

看護学科

2年

科目名：母性看護学援助論Ⅱ				担当教員氏名：矢野恵子、稲垣尚恵、山本朋子		
単位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	2年次 後期	専門科目	演習	必修		
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：						
授業科目の学習教育目標の概要：				キーワード		
マタニティサイクルにある母子と家族に対する個別的看護実践を考えるために必要な知識と技術の習得。妊婦・産婦・褥婦および新生児が正常に経過するための援助およびセルフケア能力を高めるための看護援助方法について、基本的な看護過程の展開を通して学ぶ。				看護過程の展開 ウエルネス思考 セルフケア 母乳育児支援 母性看護技術		
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		5. 6. 7. 8. 9. 10		
A 知識・理解力	マタニティサイクルにある女性の心身の変化とケアおよび新生児の特徴とケアについて基本的な知識をもとに技術を学ぶ。					
B 専門的技術	妊婦・産婦・褥婦・新生児のケアに必要な援助技術を習得する。					
C 論理的思考力	対象の状態をアセスメントし看護援助を計画実施できる能力を習得する。					
D 問題解決力	正常または健康障害を持つ対象への援助方法を理解する。					
G 倫理観	女性の自己決定と生命倫理について理解を深めそれを支えることの意義を学ぶ。					
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト：70%	レポート：20%	発表：10%	実技試験：%	その他：%		
特記事項： 事例演習ではグループに分かれて課題学習と発表を行う。						
アクティブラーニング要素： 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 演習・実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： 授業ガイダンスでレポート課題を提示します。技術の習得状況を見ながら予定を変更する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：レポート返却時にコメントを提示する。						
授業計画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容		学習に必要な時間(分)	
①【矢野】ガイダンス マタニティサイクルにある対象の看護過程展開の理解			【予習】【復習】ガイダンスで提示		【予習】120分 【復習】120分	
②【矢野】看護過程の展開 [事例演習]・妊娠期			【予習】【復習】ガイダンスで提示		【予習】120分 【復習】120分	
③【矢野】看護過程の展開 [事例演習]・分娩期			【予習】【復習】ガイダンスで提示		【予習】120分 【復習】120分	
④【矢野】看護過程の展開 [事例演習]・産褥期			【予習】【復習】ガイダンスで提示		【予習】120分 【復習】120分	
⑤【矢野】看護過程の展開 [事例演習]・産褥期			【予習】【復習】ガイダンスで提示		【予習】120分 【復習】120分	
⑥【矢野】看護過程の展開 [事例演習]・新生児期			【予習】【復習】ガイダンスで提示		【予習】120分 【復習】120分	
⑦【矢野】看護過程の展開 [事例演習]・新生児期			【予習】【復習】ガイダンスで提示		【予習】120分 【復習】120分	
⑧【矢野・稲垣】看護過程の展開 [学習発表]・産褥期			【予習】【復習】ガイダンスで提示		【予習】120分 【復習】120分	
⑨【矢野・稲垣】看護過程の展開 [学習発表]・新生児期			【予習】【復習】ガイダンスで提示		【予習】120分 【復習】120分	
⑩【稲垣・矢野】母性看護に必要な援助技術 [技術演習]			【予習】【復習】ガイダンスで提示		【予習】120分 【復習】120分	
⑪【稲垣・矢野】母性看護に必要な援助技術 [技術演習]			【予習】【復習】ガイダンスで提示		【予習】120分 【復習】120分	
⑫【稲垣・山本・矢野】母性看護に必要な援助技術 [技術演習]			【予習】【復習】ガイダンスで提示		【予習】120分 【復習】120分	
⑬【稲垣・山本・矢野】母性看護に必要な援助技術 [技術演習]			【予習】【復習】ガイダンスで提示		【予習】120分 【復習】120分	
⑭【稲垣・山本・矢野】母性看護に必要な援助技術 [技術演習]			【予習】【復習】ガイダンスで提示		【予習】120分 【復習】120分	
⑮【稲垣・山本・矢野】母性看護に必要な援助技術 [技術演習]			【予習】【復習】ガイダンスで提示		【予習】120分 【復習】120分	
使用テキスト：①森恵美 系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学各論母性看護学[2] 医学書院 ISBN978-4-260-02179-1 ②平澤美恵子 写真でわかる母性看護技術 インターメディカ ISBN978-4-89996-372-1 ③母子健康手帳 ④村本淳子 母性看護実習プレブック 看護過程の思考プロセス(医歯薬出版)ISBN978-4263237274⑤森恵美 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1]母性看護学概論 医学書院 ISBN978-4-260-02188-3⑥日本助産診断・実践研究会(編) マタニティ診断ハンドブック第6版 ISBN 978-4260043298			その他参考文献など：太田操:ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程、医歯薬出版株式会社、井上裕美他:「病気がみえるvol10 産科」メディックメディア			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 基本的な看護過程の展開について理解を深め授業に臨みましょう。グループワークが中心となりますので、意欲的に学習に臨みましょう。						

## 看護学科

科目名: 成人看護学実習 I				担当教員 氏名: 河相てる美、中田 智子		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
3	2~3年次	通年	専門科目	実習	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 看護師の実務経験を活かして、看護の場や対象の理解と現状について教授する。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
手術を受ける患者の術前・術中・術後の特徴を理解し、患者および家族のニーズに応じた看護過程を展開し、手術を受ける患者の回復支援のための看護師の役割を理解することができる。手術中患者の看護の要点を知ることができる。クリティカルな状況にある患者の特徴と看護を知ることができる。					生体侵襲 生体反応 臨床判断 共同問題 社会復帰	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力			これまで学んだ知識と見学・体験した看護を統合することができる。			
B 専門的技術			患者の安全を確保して、その人に応じた方法で援助を提供することができる。			
D 問題解決力			受け持ち患者の看護過程の展開を実践することができる。			
F チームワーク・リーダーシップ			グループでの自己の役割を理解し、自己の責任を果たすことができる。互いの情報を共有して助け合うことができる。			
G 倫理観			自らを律して、人・社会人として看護師を志す者として、自己を見つめ新たな自己成長を目指すことができる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験: %
						その他: %
特記事項: 出席状況、実習中の積極性を重視する。課題レポート、実習記録の提出その内容から総合的に判断する。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション <b>実習</b> 、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 実習前課題にコメントして返却し、不備のある学生は再提出を課す。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
* 実習日程・内容等の詳細については実習要項に記載				予習: 疾患と看護について、整理したノートの提出		
				復習: 実習の振り返りを行い、実習記録を整理し、提出		
				事前の演習(1): 4事例を提示し、学生同士で演習		
				事前の演習(2): 手術室の手洗い、ガウンテクニック、無菌操作、洗髪、足浴、清拭の演習		
使用テキスト: 1. 矢永勝彦他編集: 系統看護学講座: 別巻 臨床外科看護総論, ISBN978-4-260-02769-4 医学書院. 2. 北島政樹他編集: 系統看護学講座: 別巻 臨床外科看護各論 ISBN978-4-260-02765-6 医学書院. 3. 看護診断ハンドブック第11版, ISBN978-4-260-03451-7 医学書院.				その他参考文献など: 竹内登美子: 周手術期看護1~5(医歯薬出版株式会社) 本庄恵子監修: 写真でわかる臨床看護技術②(インターメディカ)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本実習の目的を理解し、目標の到達に必要な行動目標を明確化して毎日の実習に臨んでほしい。担当教員および指導者と報告・連絡・相談を密に行い、行動計画を修正しながら積極的に実習に臨んでほしい。						

## 看護学科

科目名: 成人看護学実習Ⅱ				担当教員 氏名: 小倉 之子 他		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
3	2~3年次	通年	専門科目	実習	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
慢性病をもつ対象者や、回復期・終末期にある対象者を理解するとともに共感的態度の育成を目指し苦痛の緩和や自己実現への支援およびQOLの向上を目指した看護援助の実際を学ぶ。					慢性病・回復期・終末期看護 看護過程の展開と実践、 継続看護、QOL	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力			机上で学んだ知識を臨地で繋げることができる			
B 専門的技術			単に基礎的な技術方法ではなく、その人に応じた方法を提供することができる			
C 論理的思考力			対象者の情報収集・アセスメントを論理的に整理することができる			
D 問題解決力			対象者の困りごとを共有し、改善方法を看護過程思考を用いて患者とともに考えることができる			
E 自己管理能力			4週間の実習の中で身体的調整、精神的調整を行いながら、自己を見つめなおして新たな自己成長を目指すことができる			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	80 %	発表:	%	実技試験: %
						その他: 20 %
特記事項: 出席状況、実習中の態度や積極性を重視する。 レポート課題、実習記録の提出などの期限は厳守すること。 実習事前課題は、再提出も含めて実習前に提出すること。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習    ディスカッション、ディベート    グループワーク    プレゼンテーション <b>実習、フィールドワーク</b>						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 実習最終日に記録物を提出。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 毎日の実習記録について助言し、記録の修正をする。						
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)	
					学習内容	学習に必要な時間(分)
* 実習日程・内容などの詳細については、実習要項に記載					【予習】120分	
実習病院: 射水市民病院、真生会富山病院					【復習】120分	
富山西総合病院、富山西リハビリテーション病院						
使用テキスト:					その他参考文献など: 1.経過別成人看護学3慢性期看護,メヂカルフレンド社.2.ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント,ヌーヴェルヒロカワ,渡邊トシ子編.3.看護診断ハンドブック第11版,医学書院,リン	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本実習の目的を理解し、目標の到達に必要な行動目標を明確化して毎日の実習をに臨んでほしい。 受身ではなく毎日の実習目的を自ら提示し、指導者と相談・連絡・報告し修正しながら積極的な姿勢で実習に参画されることを望						

## 看護学科

科目名: 高齢者看護学実習Ⅰ				担当教員 氏名: 今川 孝枝 荒木晴美 他		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 後期	専門科目	実習	必修		
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 看護師の実務経験を活かして、看護の場や対象の理解と現状について教授する。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
高齢者の特性を理解し、高齢者の健康レベルやライフサイクルの視点から健康上の問題を考え、解決のための援助を理解し実施する。また、高齢者の生活を支援する方法と看護が果たす役割について学ぶ。					高齢者の特性 生活支援	
					健康レベル 看護の役割	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 9	
A 知識・理解力			生活の場で高齢者と関わり、特性に合わせ援助する方法と看護師の役割を知る。			
B 専門的技術			個々の健康レベルに合わせ、生理的欲求に関わるニーズに応えることができる。			
C 論理的思考力			看護行為にあたり、その根拠を述べるができる。			
G 倫理観			高齢者の尊厳を大切にされた態度で接し、個人のプライバシーを守る配慮ができる。			
H コミュニケーション力			高齢者の特性に合わせた交流を持つことができる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験: % その他: 実習記録 100 % 態度
特記事項: 「聞き書き」を実践し、1冊の冊子を作成する。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習: ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 実習記録は毎日教員が確認、指導する。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
実習期間: 2学年後期(3週間)				【予習】 事前課題(実習前に提示) 実習中、適宜追加学習		
実習施設: 富山県内の介護老人福祉施設および介護老人保健施設				【復習】 実習の振り返り学習(学内)		
* 詳細については実習要項に記載、オリエンテーションで説明する						
使用テキスト: ①北川公子著代表: 系統別看護学講座専門分野Ⅱ老年看護学(医学書院)ISBN978-4-260-03186-8 ②鳥羽研二他: 系統別看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論(医学書院)ISBN978-4-260-03172-1 ③小田豊二他著: ワークブック「聞き書き」を始めよう(木犀舎)ISBN978-4-901483-75-9C0037				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 体調を整え実習に望んでください。						



看護学科				3年	
科目名: 小児看護学実習			担当教員 氏名: 矢野恵子、古里直子、稲垣尚恵 他		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	必修・選択	備考
2	2~3年次 通年	専門科目	実習	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			看護師の実務経験を生かして指導看護師と共に臨床看護や対象児とその家族の健康問題、心理状態を理解できるように指導を行う		
授業科目の学習教育目標の概要:			キーワード		
子どもの成長・発達や生活環境の特徴を理解し、子どもと家族の健康を支える地域での医療・保育・施設における看護支援から「子どもの最善の利益」を考えることができる。人間性と倫理性を身につけ、それぞれの健康のレベルに応じた看護支援の実践を学ぶ。			健康障害・家族のニード・看護支援・成長・発達・地域支援		
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 8.	
A 知識・理解力	①発達段階、疾患などさまざまな状態にある子どもとその家族に生じやすい問題について理解する。				
B 専門的技術	②子どもの最善の利益を追求する態度と支援について学ぶ。				
C 論理的思考力	③子どもとその家族のニードに応じた援助のあり方を学ぶ。				
B 専門的技術	④地域で暮らす子どもと家族に対する看護師の役割と対処を学ぶ。				
E 自己管理能力	⑤実習中の自己の健康管理ができ、欠席しない。				
F チームワーク・リーダーシップ	⑥グループ内での役割(リーダーシップ、メンバーシップ)を持ち、実習を遂行できる。				
G 倫理観	⑦適切な報告、連絡、相談ができる。 ⑧真摯な態度で実習に臨むことができる。				
H コミュニケーション力	⑨実習にかかわる人々と意思疎通ができる。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: %	レポート: 50 %	発表: 10 %	実技: 30 %	その他: 10 %	
特記事項: 以下により総合的に評価する。 出席状況・実習記録類・課題レポート・実習中の学習態度  * 提出物は期限を厳守すること。 * 原則として遅刻、欠席は認めない。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習    ディスカッション、デイ    グループワーク    プレゼンテーション    実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 病院と保育園では、木曜日に施設内カンファレンスを実施。学内では、毎週金曜日に学内カンファレンスを実施。カンファレンスの中で各自の学びを発表し、グループダイナミクスを活かした学びを共有する。最終評価は、最終日の金曜日に実習記録の内容をもとに個別に面談を行う。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 事前学習、実習中の学習態度、記録物や課題レポートなどについて実習の段階的な場面でコメントや助言を返し、最終の面談の中で総合的に評価する。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
2・3年次 2単位: 90時間 実習施設: ・富山県リハビリテーション病院・子ども支援センター 独立行政法人国立病院機構富山病院 1W ・小児科診療所(外来・クリニック) 1W ・西部保育園、作道保育園 1W  * 詳細については実習要項に記載			学 習 内 容		学習に必要な時間(分)
			【予習】: 事前課題 ①小児の成長・発達 ②小児の疾病治療・看護 ③障がい児看護 【復習】: 国家試験につなげる学習 (知識と体験の統合)		【予習】120分  【復習】120分
使用テキスト: ・系統看護学講座 小児看護学① 医学書院 ISBN 978-4-260-02002-2 ・系統看護学講座 小児看護学② 医学書院 ISBN 978-4-260-01990-3 ・写真でわかる小児看護技術 改訂第3版 インターメディカ出版 ISBN 978-4-8996-344-8 ・ナースの小児科学 中外医学社 ISBN 978-4-498-07579-5			その他参考文献など: 写真でわかる重症心身障害児のケア インターメディカ出版 ISBN: 978-4-89996-363-9		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・子どもは発達段階に応じた関わりが必要です。看護師として「子どもの最善の利益」を守る関わりを意識しながら実習を進めてください。 * 遅刻、欠席は原則として認めません。感染防止と自己健康管理に留意し実習に臨んでください。					

看護学科

2～3年

科目名: 母性看護学実習				担当教員 氏名: 矢野恵子、稲垣尚恵、他		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2～3年次 通年	専門科目	実習	必修		
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			臨床経験を活かし、助産師が行う看護の意図や根拠を説明しながら指導します。			
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード		
妊娠・分娩・産褥・新生児の各期の対象とその家族の特徴を理解し、母子とその家族における看護の展開について学ぶ。さらに、女性の健康づくりと母子保健の現状について体験的に学び、これらの学習を通して自己の生命観、母性・父性観を発達させる。				マタニティサイクル 女性と子ども 家族 成長発達 役割適応 健康診査 保健指導 母子保健 子育て支援 ウエルネス志向 生命観 母性観 父性観		
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9		
A 知識・理解力		母性看護の基礎的知識の理解を深める。				
B 専門的技術		母性看護の対象に必要な援助技術を理解する。				
D 問題解決力		受持事例の看護過程を展開し、事例の問題解決に必要なケアを考えることができる。				
G 倫理観		母性看護の対象の倫理的問題(自己決定の支援、プライバシーの保護や個人情報保護、対象の権利擁護など)を思考する。				
H コミュニケーション力		看護ケア実践に必要なコミュニケーション技術を用い、受持事例やその家族、実習施設の指導者、グループン学生、教員との円滑な関係性を図ることができる。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 40 %	発表: 10 %	実技: 40 %	その他: 10 %		
特記事項: 母性看護学実習評価表、レポート課題、実習態度や積極的な取り組みなどを基に評価する。 実習3週目には教員と面談し、受け持ち事例のケアを通しての学びを報告し最終評価とする。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション <b>実習、フィールドワーク</b>						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容		学習に必要な時間(分)
実習期間: 2年後期～3年後期の期間中 3週間(その中で2単位分の実習を行う)				以下の内容について事前学習し実習に臨んでください。 1. 母性看護学概論・援助論、母性小児疾病治療管理論の講義・演習(援助技術)内容の振り返り 2. 妊娠・産褥・新生児期の母親と胎児・新生児の心身の変化の特徴に沿った看護について 3. 実習記録における事前学習課題について学習を進める。		
実習方法: *詳細については実習要項に記載				実習前には充分に実習要項と実習ガイドを読んで理解しておくこと。母性看護学の授業で習った内容の復習をしておくこと。また、実習に有効な資料を整理して持参すること。		
対象	実習環境	実習施設				
妊娠期	産科外来 産科病棟	厚生連高岡病院 高岡市民病院 市立砺波総合病院				
分娩期						
産褥期						
新生児期						
地域での母子保健支援	市町村保健センター	射水市 小矢部 高岡市 氷見市				
	助産所	たんぼぼ助産院 ひまわり助産院 さかえ助産院 にじいる助産院				
使用テキスト: 母性看護学概論、母性小児疾病治療管理論、母性看護学援助論、小児看護学援助論等で使用したテキストを活用する				その他参考文献など: 適宜紹介する		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): * 本実習の目的を理解し、目標の達成に必要な行動目標を明確にし、計画性を持って取り組んでください。 * 実習の計画、実施についてはスタッフ及び教員に連絡・報告を密に行いながら実習に臨んでください。 * 母性看護学概論、母性小児疾病治療管理論、母性看護学援助論 で学んだ知識と技術を統合し実践できる機会です。また、日頃接する機会が少ない方を対象に実習を行うので、看護実践の機会を大切に積極的に実習に臨んでほしい。						

## 看護学科

科目名: 精神看護学実習			担当教員 氏名: 荒木晴美、北山由起子、亀田景子 他						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2~3年次	通年	専門科目	実習	必修				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
当事者なりのウェルビーイングのための問題解決方法を当事者ととも考える援助技術を習得する。また退院後の地域生活を支援するための看護師の役割について学習を深める。					精神障害と生活障害 人格の尊重 早期退院 地域生活支援 ストレングス				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10				
A 知識・理解力			精神科疾患について理解し障害者の生きづらさを理解する。						
B 専門的技術			患者の治癒過程を理解し、看護の役割を意識して援助の方法を考え実習の中で展開する。						
C 論理的思考力			早期退院の精神科医療を理解し患者個々に適した資源の活用を考慮して入院期間の援助を考えることができる。						
D 問題解決力			患者の情報を的確に収集・アセスメントし看護計画で実践できる。						
E 自己管理能力			患者の症状や拒否的反応に対して感情的ではなく症状の一部として理解し対応する努力ができる。実習場で対象者に健康にかかわるための自分自身の心身の健康の管理ができる。						
F チームワーク・リーダーシップ			グループ学習や患者との集団的かかわりの中で、自分の考えや意見を述べるができる。						
G 倫理観			精神科の強制入院や行動制限・処遇について、病棟での実際の運用から実感として理解を深め実践の中で展開する。						
H コミュニケーション力									
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	50 %
特記事項:									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習への積極的取り組みを重視する。</li> <li>・レポート課題、実習記録の提出状況なども参考にして評価する。実習最終日に教員と面接し総合評価とする。</li> <li>・実習前課題は、提出期日を厳守すること。</li> </ul>									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学習    ディスカッション、ディベート    グループワーク    プレゼンテーション <u>実習、フィールドワーク</u>									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:実習記録及び実践について評価し、記録は後日返却する。									
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)				
					学習内容	学習に必要な時間(分)			
精神看護学実習は3週間の実習である。 実習施設:精神科病院・デイケアおよび就労支援事業所					事前課題の準備 国試問題による学習の確認  実習場所の法的根拠を理解しておく				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者1名を受け持ち、看護計画の立案・実施を通して精神科疾患患者の治療過程を学ぶ</li> <li>・デイケア・生活支援・就労支援について見学実習する</li> </ul>									
実習日程などの詳細については実習要項を参照する									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者・家族・地域の理解</li> <li>・受け持ち患者を決定し看護を展開する</li> <li>・自立・就労支援の見学実習により、精神障害者の地域生活支援を理解する</li> </ul>									
使用テキスト: 精神科疾患管理論、精神看護学概論、精神看護学援助論の講義で使用したテキストと授業資料					その他参考文献など: こんなとき私はどうしてきたか(中井久夫、医学書院) 看護のための精神医学(中井久夫、医学書院)				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本実習の目的を理解し、目標到達に必要な行動目標を明確にして取り組んでください。</li> <li>・担当教員および指導者に報告、連絡、相談を行いながら実習に臨めるようにしましょう。</li> <li>・講義(精神疾患管理論、精神看護学概論・援助論)で学んだ知識と実習で学ぶ技術とを統合できる機会です。</li> </ul>									

## 看護学科

科目名: 在宅看護学実習		担当教員 氏名: 荒木晴美、高田亮子、炭谷英信、北山由起子、亀田景子、尾山由里子 他			
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	
2	2～3年次 通年	総合科目	実習	必修	
実務経験を用いてどのよう病院、訪問看護ステーション(訪問看護、居宅介護支援、福祉用具貸与)などでの実務経験を活かし、療養うな授業を行っているか: 者および家族に応じた看護過程の展開、社会資源の活用方法を学生の体験を踏まえながら教授する。					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
在宅で療養する人及びその家族の特徴を理解し、療養者及び家族に応じた看護過程が展開できる。さらに、社会資源の活用について具体的に学ぶ。					在宅療養、家族、社会資源
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力		在宅で療養する人及びその家族の特徴を理解することができる。			
B 専門的技術		在宅療養を推進・継続するための社会資源の活用方法を習得できる			
C 論理的思考力		療養者及び家族に応じた看護過程を展開することができる。			
F チームワーク・リーダーシップ		チームメンバーの一員として役割を理解し、チームに参画することができる。			
G 倫理観		援助にあたり、尊厳や権利を尊重する看護の方法を習得する。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト:	%	レポート・課題:	60 %	発表:	20 %
				実技試験:	%
				その他:	20 %
特記事項: 本科目はアクティブ・ラーニングの一環として4形態の施設で実習を行います。実習場でのカンファレンス、報告会、学内での学びの報告やディスカッションを通して学びの共有化を図り、療養者・家族に応じた看護展開ができることを狙いとしています。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 (ディスカッション、ディベート) グループワーク (プレゼンテーション) (実習、フィールドワーク)					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 事前学習、実習中の学習態度、記録物・課題レポートなどを総合的に評価します。 * 提出物は期限を厳守してください。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 実習記録、提出課題に対してコメント記載および個人面談でフィードバックを行います。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
実習期間・方法: 令和3年 5月 10日～ グループごとに実施					
実習施設: ・訪問看護ステーション ・富山型ディサービス等 ・地域包括支援センター ・訪問入浴サービス ・訪問入浴サービス * 詳細については実習要項に記載			【予習】事前課題に取り組み。関連する教科書やこれまでの講義・演習の復習。 【復習】実習で経験した事柄について関連する教科書等で復習。在宅看護領域の国家試験問題の学習。		【予習】120分 【復習】120分
使用テキスト: 在宅看護学関連講義(概論、援助論Ⅰ・Ⅱ)、家族看護概論、健康と法律、社会福祉概論等の教科書・資料 (今まで使用のもの)			その他参考文献など: 国民衛生の動向等		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ①本実習の目的を理解し、積極的に実習に参加されることを期待します。 ②行動目標を明確にして実習に望んでください。 ③健康および生活管理を十分に行ってください。					

## 看護学科

科目名: 看護研究Ⅱ(看護研究の計画)			担当教員 氏名: 担当教員 氏名:小倉之子、炭谷靖子、荒木晴美、河相てる美、村井嘉寛、矢野恵子、今川孝枝、高田亮子、中田智子、古里直子、北山由起子、炭谷英信、稲垣尚恵						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	後期	専門科目	演習	必修				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:									
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
個々の学生がテーマをもち看護研究の基礎的知識を活かした研究計画ができる。									
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10				
A 知識・理解力			看護師として成長し続ける基礎を作るために ・選択した文献の内容について説明できる。 ・選択した文献の今後の看護活動への活用について述べる事ができる。						
B 専門的技術			・文献検索ができる						
C 論理的思考力			・興味のあるテーマの研究動向についてまとめることができる ・計画書の作成ができる						
D 問題解決力			・研究の意義や研究デザイン、倫理を含めた内容でまとめることができる						
E 自己管理能力			・担当教員との調整を自主的に行い、課題を遂行できる						
F チームワーク・リーダーシップ									
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	30 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	70 %
特記事項: ゼミ形式で授業を進め、学生が主体的に発表会の運営を行う。その他70%は授業への参加態度や発言									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション、ディベート</u> <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別途指示する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:ゼミ形式で担当教員ごとに実施。									
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)				
					学習内容	学習に必要な時間(分)			
①1~2 興味のあるテーマを選定する(担当教員の決定)【専任教員】					適宜、担当教員から指示を受ける	適宜、担当教員から指示を受ける			
②3~6 文献抄読(担当教員ごとのグループワーク) 【担当教員全員】									
③7~26 研究計画策定 (研究テーマ決定、研究計画書作成) 【担当教員全員】									
④27~30 研究計画プレゼンテーション 抄録作成、発表会資料作成 【担当教員全員】									
⑤(看護系学会に参加し研究発表を聴講し学びをレポート報告)									
⑥最終回: 発表会 【教員全員】									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									
⑪									
⑫									
⑬									
⑭									
⑮									
使用テキスト: 適宜、担当教員から指示を受ける オリエンテーション担当:					その他参考文献など:				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・興味ある事柄を追求していく楽しさを体験してください。 ・積極的に図書館を活用してください。									

看護学科

2年

科目名：国際医療活動論				担当教員氏名：立瀬 剛志、北山由起子					
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考				
1	2年次 後期	専門基礎科目	講義	必修					
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：									
授業科目の学習教育目標の概要：				キーワード					
国際的視野に立って、プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーションの概念を学ぶ。 また、社会の格差と健康の格差の関係について学び、健康及び看護ケアに影響を及ぼす問題などについて具体例を通して学ぶ。 更に、看護職としてどのような活動に貢献できるのか、具体的な貢献の方法と実際の活動例について学ぶ。				プライマリーヘルスケア ヘルスプロモーション 健康格差 国際保健 国際協力 JICA					
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 7. 10					
A 知識・理解力		①プライマリーヘルスケアの国家間の違いについて説明できる。 ②1次予防・3次予防という視点からヘルスプロモーションならびに地域保健システムの重要性について理解する。 ③心理社会的背景も含めた健康格差の現状について理解する。							
C 論理的思考力		④国際協力を推進する目的、方法、施策や国際協力をするときの留意点などについて理解する。 ⑤JICAの活動の実際、協力員のその後の活動等について知る。							
E 自己管理能力		⑥看護活動を通しての国際医療への関心を深める。							
G 倫理観		⑦看護の問題意識を高め自己の看護観を深める。							
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト：	%	レポート：	%	発表：	%	実技試験：	%	その他：	%
特記事項： 【立瀬】レポート50% 出席・授業態度50%									
アクティブラーニング要素： 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：講義終了後									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：【立瀬】採点し返却する									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容		学習に必要な 時間(分)			
①【立瀬】プライマリーヘルスケアの国際比較				【復習】レポート作成情報の整理		【復習】180分			
②【立瀬】ヘルスプロモーションの概念と保健システム				【復習】レポート作成情報の整理		【予習】45分 【復習】180分			
③【立瀬】健康格差論と社会疫学の基礎				【復習】レポート作成情報の整理		【予習】45分 【復習】180分			
④【北山】JICAにおける保健医療分野の支援について				【復習】レポートを課する		【予習】45分 【復習】180分			
⑤【北山】世界の保健医療の現状と保健活動の実際1				【復習】レポートを課する		【予習】45分 【復習】180分			
⑥【北山】世界の保健医療の現状と保健活動の実際2				【復習】レポートを課する		【予習】45分 【復習】180分			
⑦【北山】医療活動・協力から看護職の役割1				【復習】レポートを課する		【予習】45分 【復習】180分			
⑧【北山】医療活動・協力から看護職の役割2				【復習】レポートを課する		【予習】45分 【復習】180分			
使用テキスト： 必要に応じて資料を配布します				その他参考文献など： マイケル・アーモット：ステータス症候群(日本評論社) ジョナサン・ハイト：しあわせ仮説(新曜社)					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 国際保健の考え方や具体的な国際保健活動について学びます。関心を持って授業に望んでください。									